

令和 6 年度 福岡県 地球温暖化防止 活動推進センター 事業報告書

令和 7 年 3 月

一般財団法人 九州環境管理協会

センターの役割



一般財団法人九州環境管理協会は、福岡県知事より「福岡県地球温暖化防止活動推進センター（以下、「県センター」）」の指定を受け、今日まで福岡県内の地球温暖化防止対策に関する普及啓発の拠点として役割を担ってきました。令和6年度は、第5期2年目となります。

県センターでは、基本的な活動として福岡県の地球温暖化対策に関する①情報提供、②広報・啓発、③活動支援、④照会・相談、⑤調査・研究の5項目を軸に事業展開を行っています。

本報告書は、県センターが実施した令和6年度事業の内容及び実績についてとりまとめたものです。

目次

はじめに

■ 福岡県補助事業

1 地球温暖化対策に関する啓発・広報活動

1-1 県民への情報発信	1
--------------	---

2 推進員、地域のNPO等の活動支援

2-1 啓発資材の貸出	3
2-2 推進員地域連絡会	3
2-3 講師派遣	5

3 住民等からの照会・相談対応

3-1 照会・相談	7
-----------	---

4 温暖化対策に取り組むNPO、企業、行政のネットワーク化

4-1 NPO・団体との連携	7
4-2 協議会等への参加	7

5 福岡県内の温室効果ガス排出実態調査・分析

5-1 温室効果ガス排出量	8
5-2 エネルギー消費量	8

■ 福岡県委託事業

6 エコファミリー応援事業

6-1 エコファミリー募集	9
6-2 削減効果分析	10
6-3 県民意識調査分析	11

7 省エネルギー相談事業

7-1 事業の概要	12
7-2 実績及び効果	12

■ 環境省補助事業

8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

8-1 脱炭素啓発活動	13
8-2 エコふぁみアプリを通じたデコ活・食品ロス削減啓発	14
8-3 大学との連携による脱炭素社会普及啓発	14
8-4 事業者への広報・啓発	15
8-5 推進員等の支援	15

おわりに

福岡県補助事業

1 地球温暖化対策に関する啓発・広報活動

1-1 県民への情報発信

県センターでは、WEB（ふくおかエコライフ応援サイト）、紙面（福岡県環境家計簿、減CO2クラブ）等を通して、地球温暖化に関する最新情報、推進員活動の様子等について情報発信を行っています。



ふくおかエコライフ応援サイトの更新

ふくおかエコライフ応援サイトでは、エコふあみアプリの周知やイベント等の情報発信を行ったほか、今年度の推進員の活動報告を公開しました。

サイト総カウント数： 1,446,107 回

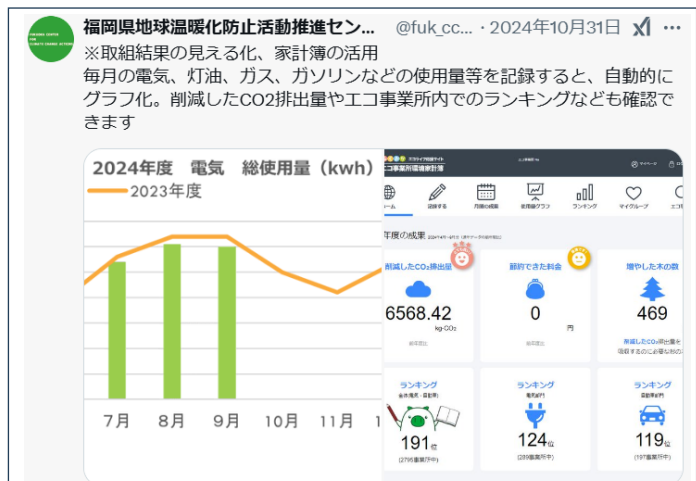
期間：2024年3月～2025年2月



SNS での情報発信

県センターでは HP に加えて、X（旧 Twitter）による情報発信を行っています。

X では、県センターが行うイベントやエコふあみアプリの周知、国立環境研究所・気象庁・環境省などが発表する研究成果などさまざまな情報を随時発信しています。



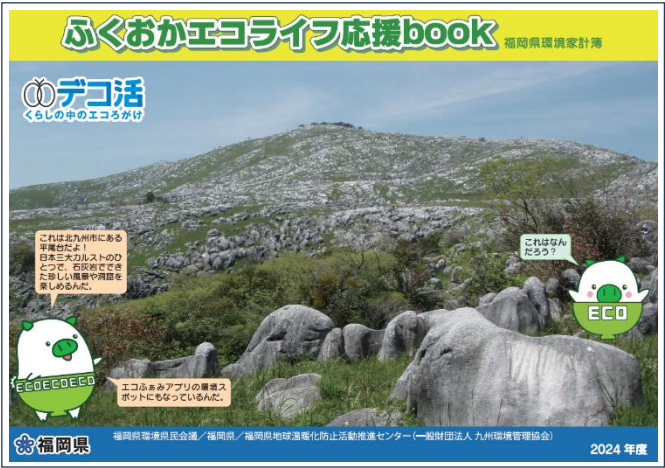
福岡県補助事業

1 地球温暖化対策に関する啓発・広報活動

ふくおかエコライフ応援 book（福岡県環境家計簿）の発行

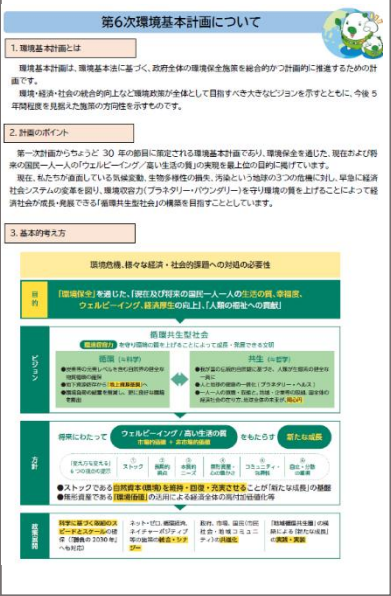
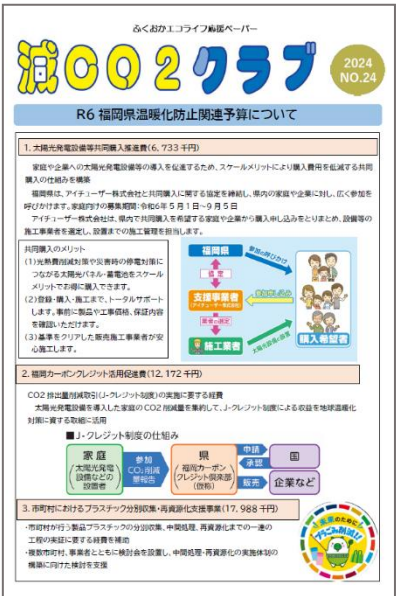
県センターでは、家庭でのエコ活動を促進するツールとして、福岡県環境家計簿を作成しています。カレンダー形式でその月に実践すると効果的なエコ活動を記載しており、わかりやすいと好評です。

2024 年度版はテーマを「デコ活 ～くらしの中のエコろがけ～」とし、暮らしが豊かになり、脱炭素などに貢献する具体的な取組の「デコ活アクション」を挙げて、県民の皆様の行動変容、ライフスタイルを見直すきっかけづくりとしています。



情報誌「減 CO2 クラブ」の作成・公開

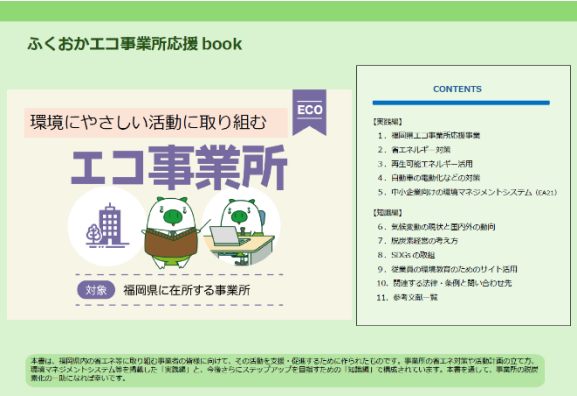
県センターでは、地球温暖化等に関する最新情報やセンター活動等を掲載した情報誌「減 CO2 クラブ」を 7 月に作成・公開しました。「R6 福岡県温暖化防止関連予算について」、環境省の「第 6 次環境基本計画について」、その他、熱中症対策、食品ロス対策について掲載しました。



ふくおかエコ事業所応援 book

県センターでは、エコ事業所を対象とした事業者支援のための冊子を作成しています。

この「ふくおかエコ事業所応援 book」は毎年更新しており、多くの事業者の方に見てもらうことで、事業所のより一層の省エネを促進し、脱炭素経営を始めるきっかけづくりとしています。



福岡県補助事業

2 推進員、地域の NPO 等の活動支援

2-1 啓発資料の貸出

県センターでは、推進員や NPO のほか、一般県民を対象に地球温暖化に関する普及啓発ができる資料を貸出しています。

2024 年度は、エコトン着ぐるみを 42 回貸出しました。また、DVD（5 回）、パネル（32 回）、紙芝居・教材等（12 回）、イベント資料（44 回）、体験学習資料（45 回）を合わせて 138 回貸出しました。

資料名	タイトル	件数
DVD	ミライアイズ、見直そうわたしたちの暮らし 他	5
パネル	気候変動、2100年の福岡 他	32
紙芝居・教材等	家庭のエコ、紙芝居「エコトンのちきゅうがたいへん」 他	12
イベント資料	ベスト、ガラボン抽選器 他	44
体験学習資料	3種比較発電機、スマートムーブ体験模型 他	45
合計		138

2-2 推進員地域連絡会

■ 推進員地域連絡会の開催

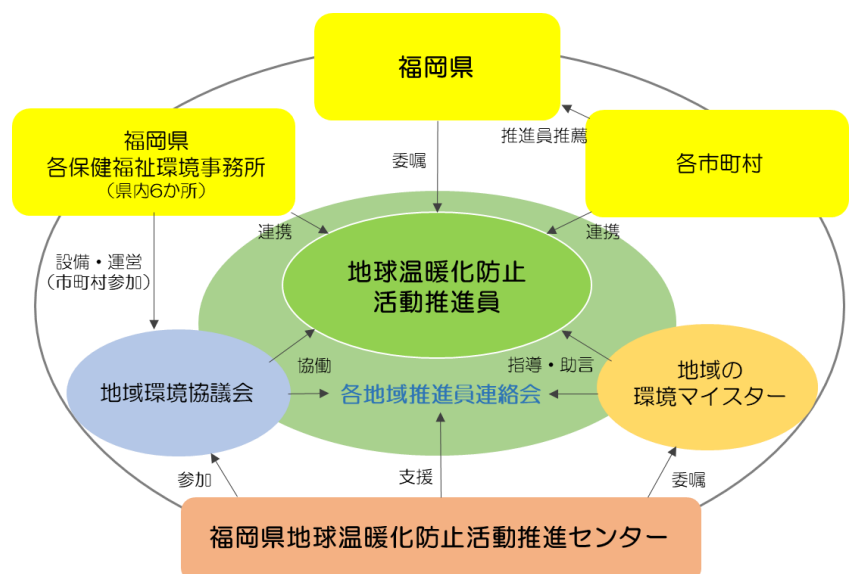
県内 6 地域において、推進員地域連絡会が毎年度 2～3 回開催されています。

連絡会では地域イベントの計画や実績報告、推進員相互の情報交換などが行われています。



推進員の支援体制

県センターでは、福岡県保健福祉環境事務所が所管する 6 地域をベースに、行政と推進員らの連携強化を図るための推進員地域連絡会を設置し、推進員活動を支援しています。



福岡県補助事業では、推進員が地域活動を行う予算として計 150 万円（1 地域 25 万円）を計上しています。

この予算は、主に推進員地域連絡会の開催、地域イベントでのブース出展、地域で行う研修会の開催などの費用等に使われています。

福岡県補助事業

2 推進員、地域の NPO 等の活動支援

地域連携エコ活動支援金の運用

県内各地で行われる地域イベントで、推進員の方々は市町村などと協働し、ブース出展、エコふあみアプリインストール会など地球温暖化防止に関する普及啓発活動を行いました。

また、各地域連絡会で検討したテーマにより研修会や学習会を行いました。

■ 地域での普及啓発活動

ちくしの環境フェア 2024

開催日時：11月9日（土）10:00～15:00

開催場所：竜岩自然の家

概要：オリジナルエコバッグづくり体験、子ども向けの温暖化防止啓発紙芝居、クイズなどにより親子で楽しく学べるように工夫して温暖化防止について理解促進を図りました。



大刀洗町ドリームまつり

開催日時：11月10日（日）10:00～15:00

開催場所：大刀洗ドリームセンター、大刀洗町役場駐車場

概要：地球温暖化の現状や私たちにできることのパネル展示、CO₂の重さ比較体験、エコクイズなどを行い、家庭での省エネの重要性の周知や、多くの来場者にCO₂排出量削減のための具体的取組について理解促進を図りました。



■ 研修会

南筑後地域推進員研修会

開催日時：2月28日（金）14:00～16:00

開催場所：大木町くるるん環境学習室

概要：テーマを推進員の地域活動によって確実に地域を変えていくための蓄積型成長活動の提案として、課題を絞った蓄積型学びによる専門性の獲得と成長、それに基づく活動の重要性などの説明を受けました。



■ 学習会

宗像・遠賀地域推進員研修会

開催日時：3月6日（木）11:00～14:00

開催場所：IKEA 福岡新宮

概要：IKEA の脱炭素の取組について説明を受け、企業の取組をどう広げていくか、また、今後の推進員活動にどう活かしていくか等について検討しました。



推進員活動件数：49 回

啓発人数：7,749 人

CO₂ みなし削減量：1,064.4

t-CO₂/年

■ 年間換算みなし CO₂ 削減量の算出方法

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの算出に準じる。

人数×0.138t/人・年×1.0（展示・講演等）＝●●t-CO₂/年

※以降、注釈がないものについては、この方法で算出しています

福岡県補助事業

2 推進員、地域の NPO 等の活動支援

2-3 講師派遣

県センターでは、幼稚園・保育所等の園児から高齢者までの幅広い年代を対象に、講師を派遣して地球温暖化防止等について啓発しています。

エコアドバイザー派遣

主に一般県民や、小学生以下の児童を対象とした講師派遣事業です。

市民を対象としたコンポスト利用講座、気候変動や温暖化、食品ロスに関する講座のほか、小学生や地域住民を対象とした生物多様性や生物への温暖化の影響に関する講座、SDGs に関する講座等、内容は多岐にわたります。

エコアドバイザー派遣による講座の開催

2024 年度は、一般県民、小学生を対象とした講座を 45 回実施しました（園児向けエコ出前教室は含まず）。

今年度の講座は希望するテーマとして、地球温暖化や生態系への影響に関連する内容が多い傾向にありました。



園児向けエコ出前教室の実施

園児向け出前教室はエコアドバイザー派遣の一つで、幼稚園・保育所等の園児、園児の保護者にエコ活動を普及啓発することを目的としています。

この教室は、水、食、ごみ等を通じて環境や地球温暖化について学習し、子どもたち自身ができることについて学ぶものです。教室終了後に子ども環境家計簿食育編を渡し、家に持ち帰って子どもたちが保護者と話し合い、一緒にエコ活動を実践してもらえるようにしています。

本教室は大変好評で、毎年多くの申し込みがあり、2024 年度は 61 箇所の園で教室を実施しました。



講座回数：106 回（計画 110 回）

啓発人数：4,333 人

小学校等の派遣による CO₂ みなし削減量：

啓発人数：1,453 人 200.5t-CO₂/年

幼稚園・保育所等の派遣による CO₂ みなし削減量：

啓発人数：2,880 人 397.4t-CO₂/年

福岡県補助事業

2 推進員、地域の NPO 等の活動支援

環境マイスター派遣

主に企業、中学校以上の教育機関、教職員、自治体等を対象とした講師派遣事業です。

EA21 取得希望事業者への支援、教職員を対象とした環境教育に関する講演、地域の環境教育・環境行政に携わる人々を対象とした講演等を行っています。

環境マイスターは、既定の有資格者（技術士（環境部門）、エネルギー管理士、エコアクション21 審査員、環境カウンセラー等）、もしくは同等の知識を有していると認められる方で、令和 6 年 4 月時点での登録者は 30 名です。

2024 年度は、企業、団体、大学での授業、自治体などに環境マイスターを派遣しました。

講座回数：10 回（計画 20 回）

啓発人数：505 人

CO₂ みなし削減量：69.7 t-CO₂/年

うちエコ診断士派遣

うちエコ診断では、資格を持ったうちエコ診断士が受診家庭とのコミュニケーションを通じて、その家庭に合わせたオーダーメイドのエネルギー対策・地球温暖化対策を提案しています。

2024 年度は計画 50 世帯に対し、18 世帯でうちエコ診断を実施しました。また、県事業以外に、北九州市立大学の依頼で北九州市小倉北区の城野ゼロ・カーボン先進街区の住民 12 世帯を対象にうちエコ診断を実施しました。

2024 年度に実施したうちエコ診断では、9 世帯が事後調査票に回答しました。この事後調査票から推定される CO₂ 削減量は 1 世帯当たり 0.9 t-CO₂/年となります。

受診者数：18 世帯

CO₂ みなし削減量※：
8.5 t-CO₂/年

※CO₂ みなし削減量は、うちエコ診断事後調査票に回答した 9 世帯から算定

受診者の市町村別実施件数

No	市町村名	実施形態	件数
1	古賀市	会場	4
2	大木町	会場	4
3	小竹町	会場	3
4	福岡市	会場、Zoom	2
5	飯塚市	会場	2
6	筑後市	会場	2
7	北九州市	Zoom	1
計			18

No	市町村名	実施形態	件数
1	北九州市	会場、Zoom	12
計			12

メルマガによる情報発信

県センターでは、推進員のスキルアップや最新情報の取得を目的として、推進員と環境マイスター、エコアドバイザーに情報発信を月 0～11 件程度（計 47 件）行いました。主な内容は、研修やフォーラムの開催案内、省庁や研究機関による最新研究、エコふぁみアプリなどについてです。

福岡県補助事業

3 住民等からの照会・相談対応

4 温暖化対策に取り組む NPO、企業、行政のネットワーク化

3-1 照会・相談

県センターでは、住民等からの地球温暖化等に関する照会、相談等について随時受け付けています。
2024 年度は、約 550 件の相談等がありました。

4-1 NPO・団体との連携

県センターでは、NPO、企業、団体等からの依頼を受けて、講演やイベント出展等を行っています。
2024 年度は団体のイベント開催に協力しました。

4-2 協議会等への参加

県センターは、県内で開催される地球温暖化等に関する協議会に参加しました。
今後も多くの機関と協働して、地球温暖化防止に関する活動を活発化させていきます。

センターが参加した協議会一覧（令和 6 年度）

	開催日	名 称	支援内容	備考
1	4月24日	福岡市地球温暖化対策市民協議会総会	幹事会委員	対面会議
2	5月14日	福岡県省エネルギー推進会議	オブザーバー	対面会議
3	5月21日	福岡県気候変動適応推進協議会	構成員	対面会議
4	6月7日	福岡市地球温暖化対策市民協議会臨時総会	幹事会委員	書面会議
5	9月27日	第12回気候変動適応九州・沖縄広域協議会	オブザーバー	書面会議
6	10月3日	福岡市環境教育・学習計画推進協議会	協議会委員	対面会議
7	10月9日	福岡市地球温暖化対策実行計画協議会	協議会委員	対面会議
8	11月15日	エコ事業所表彰審査会	審査会委員	対面会議
9	11月20日	福岡県気候変動適応推進協議会	構成員	対面会議
10	1月24日	第21回九州地域エネルギー・温暖化対策推進会議	構成員	オンライン
11	2月25日	第13回気候変動適応九州・沖縄広域協議会	その他関係者	ハイブリッド

福岡県補助事業

5 福岡県内の温室効果ガス排出実態調査・分析

5-1 温室効果ガス排出量

県センターでは、特定事業者からのアンケート回答、国や県等の統計データをもとに、2022年度福岡県内の温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）を算定しました。

- ・2022年度の温室効果ガス総排出量は4,648万トンCO₂。
- ・基準年度（2013年度）と比べて25.3%減少、前年度と比べて8.7%増加。
- ・家庭部門、業務部門、産業部門、運輸部門、廃棄物分野、一酸化二窒素が前年度と比べて増加、基準年度と比べると全排出区分で減少。
- ・温室効果ガス総排出量が前年度比で増加した主な要因として、二酸化炭素排出係数が前年度に比べて高くなったこと、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され人の活動が活発になってきたことなどが考えられます。

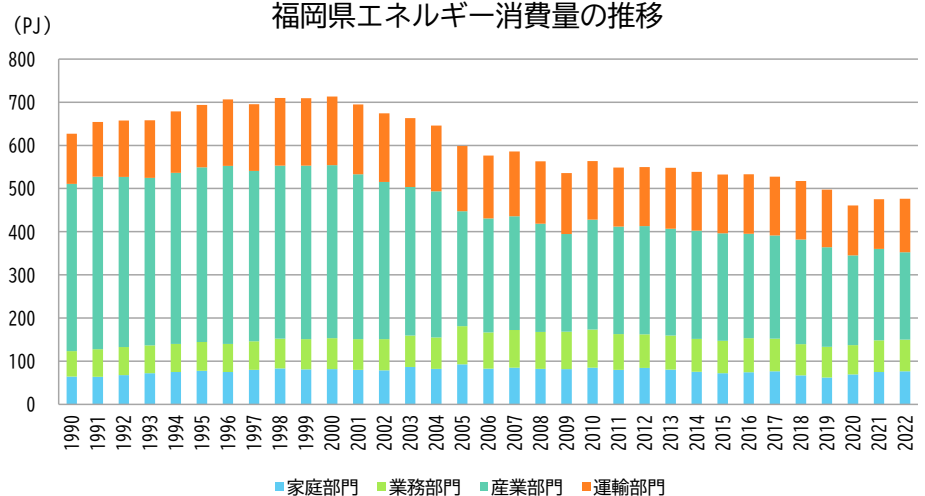
福岡県の温室効果ガス総排出量総括表

温室効果ガス排出区分	基準年度 2013年度 (万トンCO ₂)	前年度 2021年度 (万トンCO ₂)	増減率 対前年度 (%)	現況年度 2022年度 (万トンCO ₂)	増減率 対基準年度 (%)	(参考) 全国の増減率 対基準年度 (%)
合計	6,224	4,274	8.7	4,648	-25.3	-19.3
二酸化炭素	6,138	4,203	8.9	4,578	-25.4	-21.3
エネルギー起源	5,440	3,567	12.4	4,008	-26.3	-22.0
エネルギー転換部門 (発電所等)	65	46	-0.7	46	-28.8	-20.2
家庭部門	1,047	548	32.1	724	-30.8	-17.7
業務部門 (商業・サービス・事業所等)	1,113	567	30.6	740	-33.5	-45.2
産業部門 (製造業等)	2,247	1,620	2.0	1,653	-26.4	-23.5
運輸部門 (自動車等)	969	785	7.6	845	-12.8	-14.0
非エネルギー起源	698	636	-10.4	570	-18.3	-11.7
工業プロセス分野 (セメント製造等)	613	555	-12.0	488	-20.3	-17.0
廃棄物分野 (一廃・産廃等)	85	81	0.8	82	-3.2	-1.0
メタン	36	32	-2.5	31	-14.8	-8.6
一酸化二窒素	42	32	0.1	32	-24.7	-13.3
代替フロン等4ガス (HFC、PFC、SF ₆ 、NF ₃)	7	8	-12.1	7	-2.6	39.0

5-2 エネルギー消費量

- ・2022年度のエネルギー消費量は476PJ（ペタジュール）。
- ・基準年度（2013年度）と比べて13.1%減少、前年度より0.2%増加。
- ・基準年度と比べると4部門とも減少、前年度と比べると業務部門と産業部門で減少。
- ・2022年度の部門別消費量構成は、基準年度と概ね同程度。

福岡県エネルギー消費量の推移



福岡県委託事業

6 エコファミリー応援事業

福岡県では、家庭におけるエネルギー使用の状況・方法等の見直しを促すことによって、エネルギー有効利用とCO₂排出量の削減を図ることを目的に、「エコファミリー応援事業」を実施しています。

県センターは、イベント等でのエコふぁみアプリ等の紹介を通じてエコファミリーの募集を行ったほか、エコファミリーからの報告データ入力、取組結果を用いた事業効果分析、エコふぁみユーザーを対象としたアンケート調査分析等を行いました。

6-1 エコファミリー募集

エコふぁみを周知する啓発チラシやポスターを作成、県内各地で街頭啓発活動を行いました。またSNS（X）でハッシュタグ#エコふぁみとつけてつぶやくなどして、SNSユーザーに周知を行いました。



SNS 広告の掲載

スマホユーザーに直接エコふぁみアプリを周知することを目的として、スマホを使って SNS（Facebook）を利用している県民を対象に、2024 年 12 月下旬～2025 年 1 月下旬にかけて広告を掲出しました。

インプレッション：
583,495 回

※広告表示数

リンククリック：
2,981 回
※アプリページに
遷移した回数



このような広告が出てきて、画面をタップするとアプリ紹介ページに遷移し、アプリをダウンロードできるようになります。

商業施設等での街頭啓発

多くの人が集まる道の駅や講習会等で、エコふぁみアプリを周知する街頭啓発を 9 回実施しました。

11/20 に道の駅むなかたで実施した街頭啓発では、来館者にエコトン着ぐるみと一緒にアプリのダウンロードを呼びかけました。また、当日は環境省がすすめる「デコ活」を周知するパネルも展示し、エコふぁみを通じて脱炭素ライフスタイルへの転換を呼びかけました。

街頭啓発：**9** 回

参加者数：**1,256** 人



←アプリをダウンロードした方には、オリジナルエコトンエコバッグを景品としてお渡ししました。

6-2 削減効果分析

県センターでは、エコファミリーからの半年分の取組報告データを入力、報告データを用い、前年同期比較による節電効果分析、CO₂ 削減効果分析を行いました。

■ 半年分の取組

半年分の電気・水・ガス等のエネルギー使用量、ガソリン・軽油・灯油購入量、可燃ごみの廃棄量等の報告を入力。

令和 5 年度下半期報告数：950 世帯
(うち、有効データ：531 件)
令和 6 年度上半期報告数：571 世帯
(うち、有効データ：402 件)

■ 分析方法

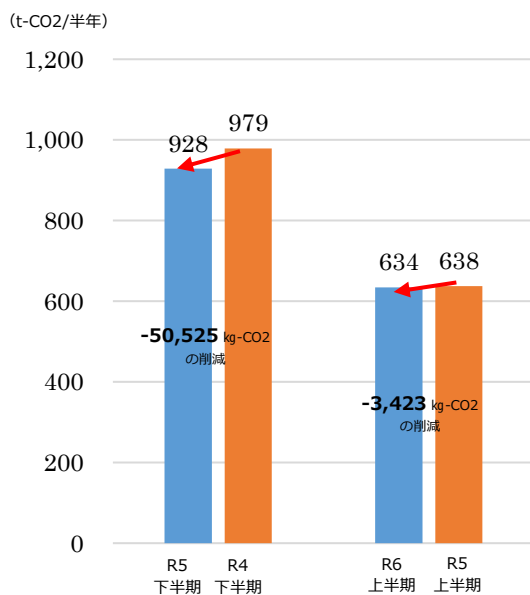
・ 節電効果分析

世帯人員別・住居形態別(戸建、集合)電気使用量から CO₂ 排出量の算定、前年度比で節電効果を分析

・ 属性別 CO₂ 削減効果分析

世帯人員別各エネルギー使用量の集計結果より、エネルギー種別 CO₂ 排出量の算定、前年度比で属性別 CO₂ 削減効果を分析

※電気の排出係数は事業効果を比較しやすいように 0.53 で統一して算定



エネルギー種別 CO₂ 排出量の合計値と前年同期比較

令和 5 年度下半期

- ・ 節電効果分析では、電気使用量が前年同期に比べて約 5 万 kWh 減少、電気使用による CO₂ 排出量が約 636.5 t-CO₂ と、前年同期に比べて約 26.5t-CO₂ 減少しました。
- ・ 属性別 CO₂ 削減効果分析では、当該期間の電気・ガス・水道・ガソリン・灯油・ごみ排出量などの報告データから、CO₂ 排出量を算定します。当該期間の CO₂ 排出量は約 928t-CO₂ と前年同期と比べて約 50.5t-CO₂ の減少、対前年増減率は-5.2%でした。

電力削減量： **50,015 kWh/半年**

電気使用量削減による CO₂ 削減量：

26,508 kg-CO₂/半年

電気・ガス・ガソリン等のエネルギー使用による CO₂ 排出の削減量：

50,525 kg-CO₂/半年

令和 6 年度上半期

- ・ 節電効果分析では、電気使用量が前年同期に比べて約 1.4 万 kWh 増加、電気使用による CO₂ 排出量が約 417.1 t-CO₂ と、前年同期に比べて約 7.5t-CO₂ 増加しました。
- ・ 属性別 CO₂ 削減効果分析では、当該期間の CO₂ 排出量は約 634.4t-CO₂ と前年同期と比べて約 3.4t-CO₂ の減少、対前年増減率は-0.5%でした。

電力削減量： **+ 14,294 kWh/半年**

電気使用量削減による CO₂ 削減量：

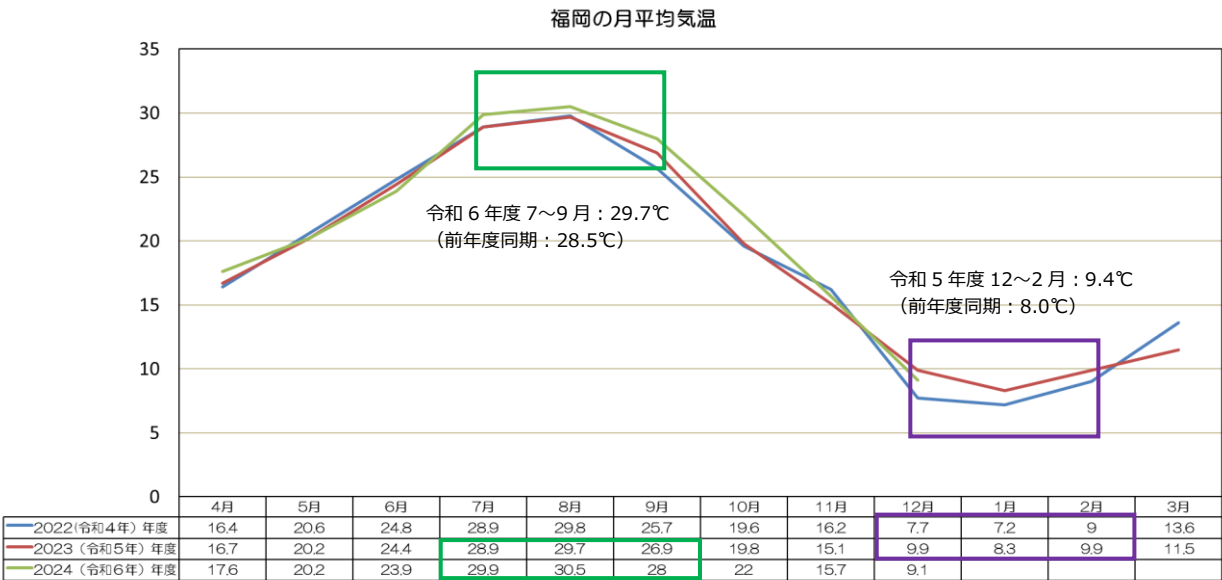
+ 7,575 kg-CO₂/半年

電気・ガス・ガソリン等のエネルギー使用による CO₂ 排出の削減量：

3,423 kg-CO₂/半年

当該期間の気象条件と考察

- 家庭のエネルギー使用に関係があると考えられる、暖房・冷房需要期間の平均気温は以下の通りです。
- ・令和5年度下半期（12～2月）：9.4℃（前年度同期：8.0℃）→平均気温が+1.4℃で、前年度に比べて暖かかった。
 - ・令和6年度上半期（7～9月）：29.7℃（前年度同期：28.5℃）→平均気温が+1.2℃で、前年度に比べて暑かった。



- ・令和5年10月～令和6年9月末までの1年間の電力使用量について、冬期は削減したものの、夏期は増加となりました。またガスや水道、ガソリンなど他のエネルギー種別を含めたCO₂削減量については、冬期は削減、夏期は若干の削減となりました。
- ・冬期は、前年と比べて暖かくなったことによる暖房需要の減少が主な要因と考えられます。夏期は前年と比べて暑くなったことによる冷房需要の増加が、電力使用量の増加につながったものと考えられます。夏期の各家庭の節電達成率についても25%程度にとどまりました。

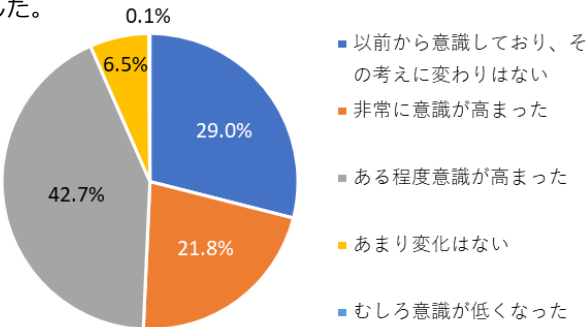
6-3 県民意識調査分析

県センターでは、福岡県在住のエコふぁみアプリユーザーを対象に実施した地球温暖化対策に関する意識調査について、集計・分析を行いました。

- 対象：県内のユーザー15,632人
- 回答方法：アプリのアンケート機能
- 回答期間：令和6年5月1日～6月1日
- 回答率：10.3%（1,609/15,632人）
- 集計方法：単純集計及び各設問と年齢、温暖化関心度等とのクロス集計

調査結果

- ・地球温暖化に関心があると回答した人は約96%でした。
- ・エコファミリーに登録したことによる地球温暖化に対する意識の変化については、「以前から意識しており、その考えに変わりはない」が29.0%だった一方、意識が高まったと回答した人は約65%に達し、前年より約8%増加しました。エコファミリー登録が地球温暖化問題への意識向上に寄与していることが明らかになりました。



福岡県委託事業

7 省エネルギー相談事業

福岡県では、事業者部門の温室効果ガス排出量を削減することを目的に、現有設備の運用改善や省エネ型設備への更新などを検討されている県内の事業所を対象に、省エネに関するアドバイスを無料で行う「省エネルギー相談事業」を実施しています。

県センターでは、申込があった事業所に専門家を派遣し、専門家による相談回答書を点検、交付するほか、事業効果を確認するためのアンケート調査等を行っています。

7-1 事業の概要

■対象

福岡県内の事業所：91 社

■内容

専門家より、事業者に対し設備の運用改善方法・省エネ型設備への更新による経済効果等の助言、助成制度の情報提供など各種支援を無料で行いました。

■事業者のメリット

- ・コスト削減
- ・業務改善
- ・人材育成
- ・地球温暖化防止への貢献

事業フロー

申込

相談申込書を県センターにメールか FAX で送信

窓口から受付および相談内容の確認連絡

現地相談

現地相談を行う場合、相談日程を調整

専門家による 2～3 時間の現地相談の上、省エネ診断を実施

回答

診断結果に基づき、運用面や投資面に関する回答書を相談者に交付

回答後も追加的な問合せや実際の設備更新に当たっての相談などをフォロー

7-2 実績及び効果

電話・メールでの相談：61 件

現地相談：91 件

運用改善・設備更新による省エネ効果

電力削減量：

1,210 千 kWh/年

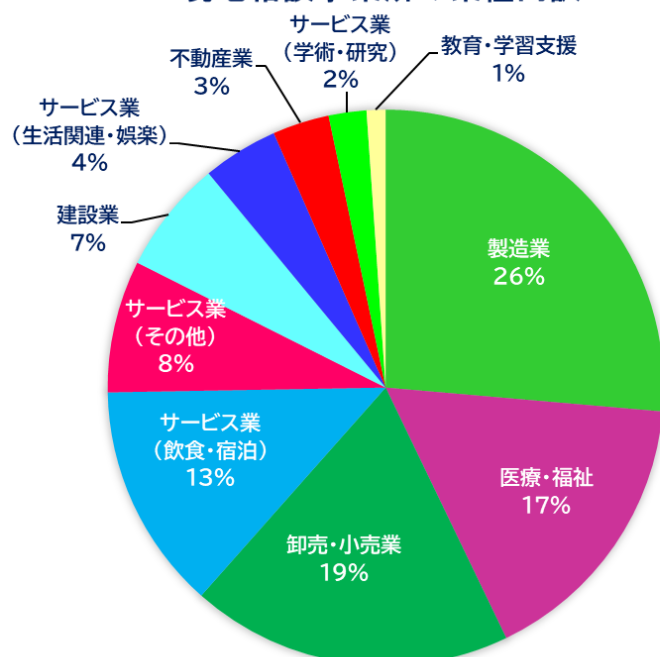
CO₂ 削減量※：

491 t-CO₂/年

※CO₂削減量 = 電力削減量 (kWh) × 0.406 kg-CO₂/kWh
(2023 年度調整後排出係数)

※CO₂削減量には電力以外の灯油、ガスの削減量を含む

現地相談事業所の業種内訳



環境省補助事業

8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

県センターでは市民向けの脱炭素啓発活動として、大型商業施設でのデコ活啓発イベントを開催したほか、エコふぁみアプリを通じた食品ロス削減啓発、県内 3 つの大学の協力のもと、環境科学を履修する学生を対象に気候変動に関する講座等を行いました。

また事業者支援としては、「エコ事業所応援 book」の内容を更新し、解説動画を作成・公開したほか、メルマガを通じて情報発信を行い、事業所の省エネ・省資源の取組をさらに促進させました。

また推進員の資質向上のため推進員研修を行いました。

8-1 脱炭素啓発活動

イオンモール香椎浜にて、一般県民向けにデコ活を知って実践してもらいイベントを開催しました。

■イベント

開催日時：2月1日（土）
10：00～16：00

開催場所：イオンモール香椎浜
セントラルコート

来場者数：900人

CO₂削減量※：
6.7t-CO₂/年

※CO₂削減量は環境省への報告による

大型商業施設でのデコ活啓発イベントの開催

イベントでは、「地産地消」「食品ロス削減」「ごみ削減」「サステナブルファッション」「公共交通機関利用促進」をテーマに、県内で事業展開を行う事業者、NPO、行政に出展を依頼し各ブースでそれぞれ啓発を行ったほか、すべてのブースを回ってクイズを解くクイズラリーを実施しました。クイズラリーでは、環境に配慮して作られた製品（日用品や食料品）が当たるくじ引きができることもあり、多くの方に参加していただきました。

- 地産地消：県内で生産された野菜やその加工品等販売（山の農園 kotokotokitchen、火曜日の竹林隊、NPO 循環生活研究所）
- 食品ロス削減：食ロス削減啓発冊子の配布（味の素(株)、福岡県環境部循環型社会推進課）、フードドライブの開催（福岡県フードバンク協議会）
- ごみ削減：プラ製品の回収、間伐材を使ったワークショップ（福岡市環境局循環型社会推進部）、廃缶を使った寄せ植え体験（小さなみどりの会）、県認定リサイクル製品の展示（福岡県環境部循環型社会推進課）
- サステナブルファッション：0円服の交換会（㈱ワンピース）
- 公共交通機関利用促進：シェアサイクルの展示（チャリチャリ(株)）

国はデコ活の実践を通じて、脱炭素社会に向けたライフスタイルの転換を目指しています。そのため本イベントでは来場者が実際にデコ活を体験できるブースを設けました。

当日はクイズラリーに 500 人、間伐材ワークショップや廃缶ワークショップにも多くの方が参加されました。またプラスチック製品は 26.9kg 回収し、0円服の交換会では洋服 316 枚を回収、225 枚をお持ち帰りいただき、再利用することができました。

また、味の素(株)と福岡県が企画した「子どもエコクラブ」のイベントも同会場で開催され、子どもたちが来場者に食品ロス削減を呼びかけるなど、幅広い世代が環境に配慮した行動を学ぶ機会となりました。



クイズラリーの景品にはイオン九州(株)の環境配慮型製品を中心に、来場者にさらに環境意識を高めてもらえるものとなりました。

環境省補助事業

8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

8-2 エコふぁみアプリを通じたデコ活・食品ロス削減啓発

エコふぁみアプリの「お知らせ」を通じて、福岡県環境部循環型社会推進課の協力のもと、エコふぁみユーザーを対象にデコ活アクションと食品ロス削減に関するコラムを計 22 回配信し、デコ活や食品ロス削減を推進しました。

食品ロス削減では、賞味期限と消費期限の違い、食材の保存方法、食材を無駄なく使うレシピ紹介、外食での注意点（3010 運動、てまえどり）、備蓄食材の利用など多岐にわたって紹介し、エコふぁみアプリユーザーの行動変容を促しました。

事後アンケートから、本コラムを読んだ後に食品ロス削減に関して「意識が変わった（非常に意識が変わった+少し意識が変わった）」と回答した人は 90%に上り、コラムを読んだ人のうち 9 割以上の 3,003 人が食品ロス削減に取り組んだと回答しました。

取り組んだ取組として多かった項目は、「賞味期限と消費期限を確認し、すぐ捨てないようにした（34.6%）」、「食材の保存方法を工夫し、廃棄量を減らした（31.8%）」、「作りすぎないようにして食べ残しを減らした（28.8%）」などがありました。



循環型社会推進課が作成している「てまえどり」ポップ

お知らせ

2024年8月21日（水）12:02

デコ活 食ロス削減編④食材の冷凍保存

食ロス削減シリーズ4回目。今回は野菜の冷凍保存についてです。
旬の野菜は栄養価も高く、安く買えるので積極的に食べたいですね。
野菜も冷凍保存できます！おおよその保存期間は3週間。長ネギ、しょうが、にんにくなどは使いやすい大きさに切って冷凍。ほうれん草などはゆでってから冷凍。他にも冷凍保存できる野菜はたくさんありますので「野菜 冷凍方法」で検索してみてください。冷凍すると野菜の細胞壁が壊れて、浸透圧で味がよく染み込みますので、煮物や汁物などに向いています。野菜の旨みや栄養も一緒に取れますので一石二鳥です。

配信したコラム例

食品ロス削減実践者数：

3,003 人

CO₂ 削減量※：

16.4t-CO₂/年

※CO₂ 削減量は環境省への報告による

8-3 大学との連携による脱炭素社会普及啓発

- 開催日：6月10日（月）
対象大学：近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科
参加者数：61 人
- 開催日：10月9日（水）
対象大学：福岡大学工学部社会デザイン工学科
参加者数：120 人
- 開催日：12月17日（火）
対象大学：福岡女子大学国際文理学部環境科学科
参加者数：53 人

受講者数：234 人

CO₂ 削減量※：

6.8t-CO₂/年

※CO₂ 削減量は環境省への報告による

県内の3大学（近畿大学、福岡大学、福岡女子大学）の学生を対象に、気候変動の現状と将来予測、個人でできる温暖化対策の具体的な内容などについて話をし、環境省の進めるデコ活などの普及促進を図りました。



大学での講座の様子

環境省補助事業

8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

8-4 事業者への広報・啓発

福岡県内の省エネ・省資源に取り組むエコ事業所の活動を促進すべく作成している「エコ事業所応援 book」について内容を更新し、その解説動画（計 12 本）を作成・公開しました。

- 1.【実践編】福岡県エコ事業所応援事業
- 2.【実践編】省エネルギー対策①
- 3.【実践編】省エネルギー対策②
- 4.【実践編】再生可能エネルギー活用
- 5.【実践編】自動車の電動化などの対策
- 6.【実践編】中小企業向け環境マネジメントシステム（EA21）
- 7.【知識編】気候変動の現状と国内外の動向
- 8.【知識編】脱炭素経営の考え方①
- 9.【知識編】脱炭素経営の考え方②
- 10.【知識編】SDGs の取組①
- 11.【知識編】SDGs の取組②
- 12.【知識編】従業員の環境教育のためのサイト活用

総視聴回数：

3,286 回

省エネ手引書解説動画の作成、メルマガの配信

本動画は、エコ事業所応援 book の内容をよりわかりやすく説明したものです。1 つの動画を 5 分から 10 分程度とし、隙間時間に気軽に見ることができるようにしました。また、連続で視聴される方のために再生リストも作成しました。

加えて、エコ事業所向けに中小企業が活用できる補助金情報や、事業所ですぐに実践できる省エネ対策、脱炭素経営に関するメルマガを配信し、事業所の省エネ・省資源行動をさらに促進させました。

4.【実践編】自動車の電動化などの対策

電動車、フロンなどの対策を実施する 6

(1) 自動車の電動化 ※5

電気は動力源として使う自動車を「電動車」と呼びますが、動力源の100%が電気である「電気自動車（EV）」のほかにも、ガソリンと電気の両方を使う「ハイブリッド自動車（HV・HEV）」や「プラグイン・ハイブリッド自動車（PHV・PHEV）」、水素を使って電気をつくる「燃料電池自動車（FCV・FCEV）」があります。

国は、走行時のCO₂排出量や航続距離など各電動車の特徴を踏まえ、特定の技術に限定することなく、あらゆる技術の選択を追求することが必要であると考え、2035年までに、乗用車新車販売で電動車100%という目標を掲げています。

(2) ゼロカーボン・ドライブ ※6

自社の建物屋根に太陽光発電を導入するなどの再生エネルギーとEV/PHV/FCVを組み合わせる「ゼロカーボン・ドライブ」を実施し、自動車による移動を脱炭素化しましょう。

(3) フロン対策について ※7,※8

フロン類は、化学的にきわめて安定した性質で強く、人体に毒性が小さいといった性質を有していることから、エアコンや冷蔵庫などの冷暖、建物の断熱材、スプレーの噴射剤など、身の回りの様々な用途に活用されてきました。

しかしながら、フロン類による「オゾン層の破壊」や「地球温暖化（二酸化炭素の数十倍～1万倍以上の大きな温室効果）」といった地球環境への影響が明らかになったため、現在は、より影響の少ないフロン類や他の物質への代替が可能な分野から進められています。

また、フロン類の大気中への排出を抑えるため、その調達から廃棄までのライフサイクル全体にわたる包括的な対策が、フロン類の使用の合理化及び管理の適正に関する法律（フロン排出抑制法）により進められています。

なお、地球温暖化対策計画（令和3年10月閣議決定）では、「業務用冷凍空調機器の商業用におけるフロン類（ハイドロフルオロカーボン）回収率を、2013年の約34%から、2025年に60%、2030年に75%とする」目標を掲げています。

2030年度目標値 (商業用冷凍空調機器)	地球温暖化対策計画 (令和3年10月閣議決定)	地球温暖化対策計画 (令和3年10月閣議決定)
ハイドロフルオロカーボン (HFCs)	21.6Gt-CO ₂ -Eq (2013年度に32.7%)	24.5Gt-CO ₂ -Eq (2013年度に55%)

＜地球温暖化対策計画における対策＞

フロン使用製品からのフロン低GWP化の促進

- ・ 新たな製品設計や改良による削減
- ・ 省エネ効果と環境性能の両立を図る
- ・ ユーザーや消費者に分かりやすいフロン使用製品への表示の充実
- ・ 回収率向上の促進、回収率向上の促進

業務用冷凍空調機器の使用時におけるフロン類の漏えい防止

- ・ フロン類の漏えい防止の徹底、公表制度の徹底の徹底
- ・ フロン類の漏えい防止の徹底、公表制度の徹底の徹底
- ・ 漏えい防止の徹底、公表制度の徹底の徹底
- ・ 漏えい防止の徹底、公表制度の徹底の徹底

冷凍空調機器からのフロン類の回収・適正処理

- ・ フロン類の回収率向上の徹底、公表制度の徹底の徹底
- ・ フロン類の回収率向上の徹底、公表制度の徹底の徹底
- ・ フロン類の回収率向上の徹底、公表制度の徹底の徹底
- ・ フロン類の回収率向上の徹底、公表制度の徹底の徹底

産業界の自主的な取組の促進

- ・ 産業界によるHFCs等の排出削減に係る自主的行動計画に基づく取組の促進

内容の更新に当たり、新たに再生エネ活用や自動車の電動化、フロン対策についても盛り込みました。

8-5 推進員等の支援

■ 推進員研修会

開催日時：10月1日（火）

14：00～16：30

開催場所：吉塚合同庁舎 801 会議室

参加者数：66 人



グループワークの様子

福岡県地球温暖化防止活動推進員研修会

推進員や市町村担当者、ふくおか環境マイスター、エコアドバイザー向けの研修会を10月1日（火）に実施、66人が参加しました。

今回はテーマを食品ロス削減として、福岡県から食品ロスの現状についての講義を行っていただきました。

次に、福岡県食品ロス削減マイスターの小林真理様から事業者、家庭での食品ロスの現状を踏まえ、私たちの家庭でどのような行動を行うと食品ロスを削減できるのかなど、具体例を示してわかりやすく説明していただきました。

その後に推進員活動として食品ロス削減を促すための具体的な取組を話し合うグループワークを行いました。その中で、「行政と協働し広報誌に食ロス対策特集を掲載する」「地域の子ども食堂で啓発を行う」「3010 運動やてまどりの実践を推進する」などの意見が出されました。

事後アンケートの結果、研修後に多くの推進員などの方々が食品ロス削減行動を始め、啓発活動を行っており、本研修会を通じて、研修を受けた参加者が自ら行動を起こすだけでなく、啓発活動を通じて多くの人々の食品ロス削減を促すことができたと考えています。

今後の課題

おわりに、令和6年度に県センターが実施した事業を振り返るとともに、今後の課題や展望について以下のとおり記します。

県民への情報発信、推進員への活動支援

県センターの基幹事業である地球温暖化防止に関わる情報提供、広報・啓発として、ふくおかエコライフ応援book（環境家計簿）、情報誌「減CO2クラブ」、ホームページ、SNSなどを用いて、気候変動対策に関わる情報、家庭でのエコ活動を促進する具体的取組、国や県の施策や政策、推進員活動など様々な情報を発信してきました。今後も、ふくおかエコライフ応援サイトの充実を図りながら、更なる情報発信に努めていきます。

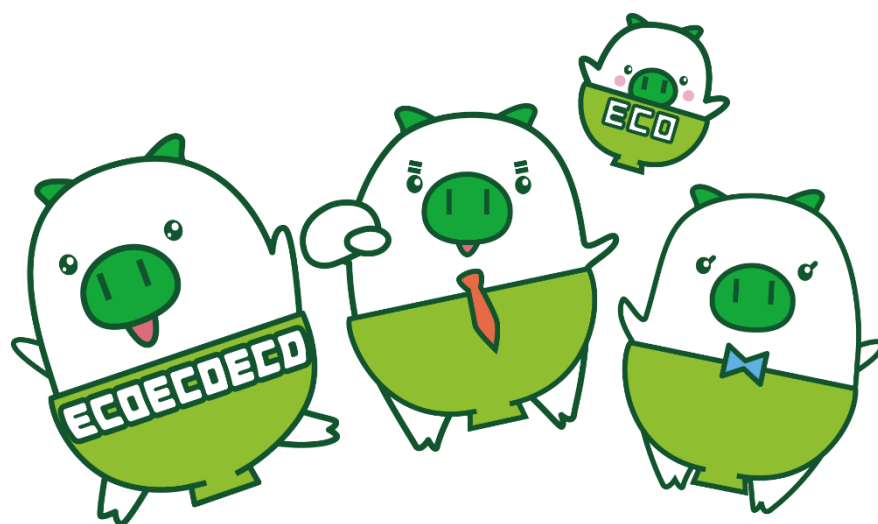
コロナ禍後、住民の生活スタイルが変化していく中、推進員の方々は市町村等と協働して意欲的な取組を行っています。

県センターとしても、今後も啓発資材の制作・貸し出し、推進員地域連絡会や推進員研修会の開催などにより推進員活動への支援を行い県民への情報発信を促進していきます。

デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）への対応

国はデコ活の推進を通じて、「新しい暮らし」とその先にある「脱炭素目標の達成」を実現するため、従来の普及啓発型から自治体・企業・団体と連携して消費者の行動変容を図る社会実装型の取組へとシフトしています。

県センターとしても、自治体、推進員などと連携し、デコ活の周知に努め、県民の行動変容・ライフスタイル転換を促し、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを実現するための取組を進めていきます。



福岡県地球温暖化防止活動推進センター

(一般財団法人 九州環境管理協会内)

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1

☎ 092-674-2360 ✉ fccca@keea.or.jp

[https : //www.ecofukuoka.jp/center](https://www.ecofukuoka.jp/center)

